

1973 年 夏休み北海道旅行③～道央、道北及び道南（その 2）の旅

1973 年 7 月 21 日(土)～27 日(金)

【1973 年 7 月 21 日(土)】

(1) 石北本線(網走～上川)

朝、ユースホテルを出て浜小清水から釧網本線で網走に向かいます。その前に SL が牽引する列車があったので、ユースホテル近くの小高い丘で SL を撮影し、浜小清水に戻り 8 時 13 分発の網走行に乗り網走に 8 時 49 分に到着しました。

この日は層雲峡に行くため、石北本線に上川まで乗車します。石北本線は旭川市の新旭川から北見を経由し、網走市の網走までを結ぶ延長 234.0 km の路線です。網走発 12 時 10 分の(急行)大雪 4 号に乗車しましたが、この列車は 3 日前に釧路から弟子屈まで乗車した列車です。網走での列車の待ちの時間が 3 時間以上あったようですが、午前中に網走市内の観光名所である網走刑務所や藻琴山などに行った写真は残っていませんでした。

網走 12 時 10 分発の(急行) 大雪 4 号に乗り、上川に 15 時 47 分に到着しました。その後、上川駅前から路線バスで層雲峡まで行き、レンタサイクルで銀河の滝などの主な観光地を見て回りました。そして、夜は層雲峡の銀河荘ユースホテルに宿泊しました。



浜小清水駅付近を走る SL



<1973 年 7 月 21 日>

○浜小清水
| 8:13 発
| 釧網本線(普通)[網走行] 36 分
| 8:49 着
○網走
| 12:10 発
| 石北本線
| (急行)大雪 4 号[札幌行] 3 時間 37 分
| 15:47 着
○上川

石北本線のダイヤ

(急行)大雪 4 号		
網	走	12:10
呼	人	↓
女	満	別
西	女	満
美	幌	12:41
緋	牛	内
端	野	↓
北	見	13:08
東	相	ノ
相	ノ	内
留	辺	薬
金	華	↓
(臨)	常	紋
生	田	原
安	国	↓
遠	軽	14:18
瀬	戸	瀬
丸	瀬	布
下	白	滝
白	滝	14:59
上	白	滝
奥	白	滝
上	越	↓
中	越	↓
天	幕	↓
上	川	15:47

【1973 年 7 月 22 日(日)】

(2) 石北本線(上川～新旭川)、宗谷本線(旭川～音威子府)、天北線

この日は層雲峡からバスで上川に戻り、旭川を経由して最北端の稚内を目指します。上川を 10 時 22 分発の石北本線旭川行きに乗り、11 時 32 分に旭川に到着しました。昨日、石北線の網走から上川まで乗車しているので、新旭川に到着した時点で石北線は全線乗車です。

旭川で 12 時 27 分発の急行「天北」稚内行に乗り換えました。この急行は名前のとおり、天北線経由の列車です。旭川から稚内までは急行なら 5 時間近くかかる長い路線で、この当時は音威子府から日本海側に行く宗谷本線ルートとオホーツク海側に行く天北線ルートがありました。この急行が天北線経由だったため、帰りに宗谷本線経由の列車に乗れば、往復で異なるルートを走破することができました。

旭川から暫く走ると塩狩峠に差しかかり、三浦綾子の小説「塩狩峠」で読んだ物語の内容が頭に浮かびました。塩狩峠を過ぎると窓の外は同じような木と熊笹の荒野が続く、風景が一向に変わらないので少し飽きてきました。しばらくウトウトして目を覚まして同じ景色が続いている感じでした。

音威子府からは天北線に入りました。天北線は宗谷本線の音威子府から分岐し、中頓別、浜頓別、猿払を経由して宗谷本線の南稚内までを結ぶ 148.9 km の路線でしたが 1989 年に廃止されました。

天北線の浜頓別からは興浜北線が出ていましたが、興浜北線も 1985 年に廃止されたため乗車することはありませんでした。

宗谷本線、天北線の長い旅が終わり、稚内には 17 時 11 分に到着しました。稚内は日本最北端の駅なので、日本の東西南北の 1 番端にある駅のうち最初に来たのが最北端の駅ということになりました。この日の稚内は気温が低く、北海道の夏の気候を良く知らずに半袖しか持って来ていなかったため、稚内駅近くの店で長袖を購入したことを覚えています。

<1973 年 7 月 22 日>

○上川
| 10:22 発
| 石北本線(普通)[旭川行] 1 時間 03 分
○新旭川
| 11:25 発
| 石北本線(普通)[旭川行] 7 分
| 11:32 着
○旭川
| 12:27 発
| 宗谷本線(急行)天北[稚内行] 2 時間 04 分
| 14:31 着
○音威子府
| 14:34 発
| 天北線(急行)天北[稚内行] 2 時間 33 分
○南稚内
| 17:07 発
| 宗谷本線(急行)天北[稚内行] 04 分
| 17:11 着
○稚内

石北本線のダイヤ

	542D
上 川	10:22
安 足 間	10:31
中 愛 別	10:39
愛 別	10:46
伊 香 牛	10:53
当 麻	11:01
桜 岡	11:05
東 旭 川	11:19
新 旭 川	11:25
旭 川	11:31



この日は稚内市内にあった公営宿泊施設の「青年の家」に泊まりました。その日に写したと思われる写真の中に、稚内の「氷雪の門」の前で撮った写真があったので、おそらく稚内公園の近くに青年の家があったのではないかと思います。



宗谷本線ダイヤ (急行) 天北		
旭	川	12:27
新	旭	↓
永	山	↓
北	永	↓
南	比	↓
比	布	↓
北	比	↓
蘭	留	↓
塩	狩	↓
和	寒	13:04
東	六	↓
剣	淵	↓
士	別	13:19
下	士	↓
多	寄	↓
風	連	↓
東	風	↓
名	寄	13:42
日	進	↓
智	東	↓
北	星	↓
智	恵	↓
南	美	↓
美	深	14:02
初	野	↓
紋	穂	↓
恩	根	↓
豊	清	↓
咲	来	↓
音	威子府	14:31

天北線ダイヤ (急行) 天北		
音	威子府	14:34
上	音威子府	↓
小	頓	14:52
上	頓	↓
敏	音	↓
松	音	↓
中	頓	15:20
下	頓	↓
浜	頓	15:38
山	軽	↓
浅	茅	↓
猿	弘	↓
芦	野	↓
鬼	志	16:10
小	石	↓
曲	淵	↓
沼	川	↓
樺	岡	↓
恵	北	↓
声	間	↓
南	稚	17:07
稚	内	17:11

【1973 年 7 月 23 日(月)】

この日は礼文島へ渡るため、ドーム型の防波堤で有名な稚内港から 7 時 30 分発の礼文島行きフェリーに乗り、礼文島の香深港に 9 時 50 分に到着すると盛大な出迎えを受けました。その後は島内観光バスで礼文島観光をし、帰りは 17 時 00 分のフェリーで稚内に戻ってきました。そのため、この日は鉄道には乗らない 1 日となりましたが、礼文島の海、高山植物、海岸などをゆっくり見ることができ、樺太に近いことも実感しました。

本物かどうかの確信はありませんが、メノウ浜で小さなメノウの原石を見つけて持ち帰ってことも思い出のひとつです。この日は昨日とは別の「稚内こまどりユースホテル」に宿泊しました。

【1973 年 7 月 24 日(火)】

(3) 宗谷本線(南稚内~音威子府)、函館本線(旭川~岩見沢)、室蘭本線(岩見沢~苫小牧)

この日は稚内を 7 時 15 分発の函館行の(急行)宗谷に乗りし、苫小牧までの長い旅となりました。稚内から南稚内までは天北線経由で来た時に乗車済みなので、南稚内から音威子府までが宗谷本線の未乗車区間です。帰りは右側の車窓に利尻富士やサロベツ原野を見ながら走っていたと思うのですが、その時の写真が 1 枚も残っていないのが残念です。

音威子府を通過した時点で宗谷本線は全線乗車となりました。その後も、一面に熊笹の広がる原野を見ながらの旅が続き、岩見沢に 13 時 12 分に到着しました。稚内を出てから約 6 時間の長い旅でした。

<1973 年 7 月 24 日>

○稚内
| 7:15 発
| 宗谷本線 (急行)宗谷[函館行] 4 分
○南稚内
| 7:19 発
| 宗谷本線 (急行)宗谷[函館行] 2 時間 05 分
| 9:24 着
○音威子府
| 9:30 発
| 宗谷本線 (急行)宗谷[函館行] 2 時間 16 分
| 11:46 着
○旭川
| 11:55 発
| 函館本線 (急行)宗谷[函館行] 1 時間 17 分
| 13:12 着
○岩見沢
| 14:03 発
| 室蘭本線 (普通)[室蘭行]1 時間 40 分
| 15:47 着
○苫小牧



宗谷本線ダイヤ②

(急行)宗谷	
稚内	7:15
南 稚 内	↓
抜 海	↓
勇 知	↓
兜 沼	↓
芦 川	↓
徳 満	↓
豊 富	7:59
下 沼	↓
幌 延	8:15
上 幌 延	↓
南 幌 延	↓
安 牛	↓
雄 信 内	↓
問 寒 別	↓
歌 内	↓
下 中 川	↓
天 塩 中 川	8:51
佐 久	↓
神 路	↓
箴 島	↓
音 威 子 府	9:24

函館本線のダイヤ

(急行)宗谷	
旭 川	11:55
近 文	↓
伊 納	↓
納 内	↓
深 川	12:18
妹 背 牛	↓
江 部 乙	↓
滝 川	12:35
砂 川	12:42
豊 沼	↓
奈 井 江	↓
茶 志 内	↓
美 唄	12:57
光 珠 内	↓
峰 延	↓
岩 見 沢	13:12

岩見沢で 14 時 03 分発の室蘭本線の普通列車に乗り換え、苫小牧に 15 時 47 分に到着しました。

今日の目的地である支笏湖に行くため、苫小牧駅前からバスに乗り支笏湖畔のユースホステルに泊まりました。支笏湖が北海道で何個目の湖だったかは数えていませんが、結構たくさんの湖を訪ねたように思います。その日の夕方に湖畔で撮った支笏湖の夕暮れの写真が残っていました。



室蘭本線のダイヤ

	228
岩見沢	14:03
志文	14:11
栗沢	14:17
栗丘	14:23
栗山	14:30
由仁	14:37
古山	14:44
三川	14:49
追分	15:02
安平	15:10
早来	15:18
遠浅	15:25
沼ノ端	15:36
苫小牧	15:47

【1973 年 7 月 25 日(水)】

(4) 室蘭本線(苫小牧～洞爺)

<1973 年 7 月 25 日>

- 苫小牧
- | 8:08 発
- | 室蘭本線(普通)[室蘭行]1 時間 34 分
- | 9:42 着
- 東室蘭
- | 9:45 発
- | 室蘭本線(普通)[長万部行]57 分
- | 10:42 着
- 洞爺

今回の北海道旅行も終盤となり、残りも少なくなってきました。今日は支笏湖畔を朝早く出

て、苫小牧を 8 時 08 分発の室蘭行に乗り、東室蘭に 9 時 42 分に到着し、9 時 45 分発の長万部行に乗り換えて洞爺に 10 時 42 分に到着しました。この頃は、国鉄全線を乗車しようなどという考えもなかったもので、東室蘭から室蘭までの支線には乗車していません。その後、この室蘭本線の支線に乗るために 2019 年夏に北海道旅行に来たことは第 2 部で書いたとおりです。

室蘭本線のダイヤ

	222	
苫小牧	8:08	
糸井	8:15	
錦岡	8:22	
社台	8:30	
白老	8:38	
萩野	8:56	
北吉原	9:01	
竹浦	9:06	
虎杖浜	9:13	
登別	9:19	
富浦	↓	
幌別	9:29	
鷲別	9:38	
東室蘭	9:42	9:45
本輪西		9:52
崎守		9:59
黄金		10:03
稀府		10:12
伊達紋別		10:24
長和		10:29
有珠		10:35
洞爺		10:42

洞爺から洞爺湖までバスに乗り、洞爺湖観光をしたはずですが、その写真は残っていませんでした。湖巡りに少し飽きたのかもしれませんが、その後、洞爺から大沼公園までは長万部で乗り換えて列車で行けるのですが、この時もヒッチハイクで大沼公園まで行っていました。その時の状況は今となっては想像でしかありませんが、車の方が楽だと



思ったのかもしれませんが。何時頃に大沼公園に着いたかは不明ですが、大沼公園をレンタサイクルで走っている写真があり、それを見ると明るいうちに大沼公園に着いたことがわかります。

この日は大沼公園駅の近くにあった大沼景雲荘ユースホステルに泊まりました。このユースホステルの予約は事前にとれていたらしく、一緒に行った友人の家族から夜に電話があった記憶があります。

【1973 年 7 月 26 日(木)】

今日が北海道旅行の最後の日となり、函館観光を残すだけとなりました。大沼公園を 9 時 19 分発の急行「せたな」に乗り、函館には 9 時 45 分に到着しました。まだ午前中だったので、函館山の夜景を見るには早過ぎ、函館市内観光をしたのだと思いますが、駅前の朝市やハリストス正教会などに行った記憶がありません。また、写真も大沼公園で写したのが最後で、函館の写真は 1 枚もありませんでした。

しかし、その日に函館駅前でラーメンを食べたことや、たまたま知り合った大阪の大学生と一緒にジャズ喫茶で時間を潰したことなどの記憶が残っています。私たち 2 人はジャズが好きだった訳ではなかったのですが、大阪の彼が行こうと言うので初めてジャズ喫茶に行き、薄暗い店内で函館山の夜景までの時間を過ごしたような気がします。2019 年に函館へ行った時、函館駅前にそれらしきジャズ喫茶を見つけ、そこだったかどうかはわかりませんが懐かしい思い出が甦りました。

函館山からの夜景を見て青函連絡船に乗る予定だったのですが、連絡船が混雑していたため本州内の特急に乗る人が優先され、それ以外の方は後の便に回されました。私の友人は青森から上野までの特急券を購入していたので、その日の連絡船に乗ることができました。一緒にジャズ喫茶へ行った大阪の大学生も、一緒の便で上野まで行ったような気がします。しかし、本州内の列車の特急券を持っていなかった私は一緒に連絡船に乗ることが出来ず、次の連絡船に乗るため一人で函館駅の待合室で待っていました。

<1973 年 7 月 26 日>

○大沼公園
| 9:19 発
| 函館本線（急行）せたな[函館行] 26 分
| 9:45 着
○函館



【1973 年 7 月 27 日(金)】

(5) 奥羽本線(青森～山形)

私は友人たちを見送った後、日が変わって 7 月 27 日の 2 時 40 発の青函連絡船「摩周丸」で青森に向かい、青森には 6 時 35 分に到着しました。まだ早い時間だったので、帰りは少し遠回りをして東北本線経由ではなく奥羽本線経由で日本海側から仙台に帰ろうと考えました。

そこで、青森 8 時 11 分発の奥羽本線経由の(急行)むつ 1 号秋田行に乗車しました。その時、私が座っていた 4 人掛けのボックスシートに地元のおばさん達が何人か来て賑やかに話を始めたのですが、何を話しているのかサッパリわかりません。話には聞いていた津軽弁を初めて聞き、これは日本語なのかと思った程でした。

<1973 年 7 月 27 日>

○函館

| 2:40 発

| 青函連絡船 摩周丸[青森行] 3 時間 55 分

| 6:35 着

○青森

| 8:11 発

| 奥羽本線

| (急行)むつ 1 号[秋田行] 3 時間 09 分

| 11:20 着

○秋田

| 13:25 発

| 奥羽本線

| (特急)つばさ 2 号[上野行] 3 時間 11 分

| 16:36 着

○山形

| 17:40 発

| 仙山線(普通)[仙台行] 1 時間 44 分

| 19:24 着

○北仙台

秋田には 11 時 20 分に到着したのですが、山形方面に行く急行列車が無く、仕方がないので特急に乗ることにしました。秋田で 2 時間近くも待ち時間があったのですが、普通列車で帰ることもできなかったのが特急に乗ったのだと思います、秋田を 13 時 25 分発の(特急)つばさ 2 号に乗り、山形に 16 時 36 分に到着しました。これで奥羽本線は、青森から山形まで乗車することができました。

山形からは 17 時 40 分発の仙山線に乗り、下宿に近い北仙台に 19 時 24 分に帰ってきました。16 日間の長い北海道旅行でしたが、思い出に残る楽しい旅でした。この後も少しだけ仙台に残り、8 月の仙台七夕祭りを見てから松山に帰省しました。

摩周丸



秋田



奥羽本線ダイヤ①

(急行)むつ1号		
青 森	8:11	
津 軽 新 城	↓	
鶴 ケ 坂	↓	
大 釈 迦	↓	
浪 岡	8:32	
北 常 盤	↓	
川 部	8:40	
撫 牛 子	↓	
弘 前	8:48	
石 川	↓	
大 鰐	8:59	
長 峰	↓	
碓 ケ 関	9:09	
津軽湯の沢	↓	
陣 場	↓	
白 沢	↓	
大 館	9:37	
下 川 沿	↓	
早 口	9:46	
糠 沢	↓	
鷹 ノ 巣	9:54	
前 山	↓	
二 ツ 井	10:05	
富 根	↓	
鶴 形	↓	
東 能 代	10:21	
北 金 岡	↓	
森 岳	10:32	
鹿 渡	↓	
鯉 川	↓	
八 郎 潟	10:49	
羽 後 飯 塚	↓	
大 久 保	↓	
追 分	11:05	
上 飯 島	↓	
土 崎	11:12	
秋 田	11:20	

奥羽本線ダイヤ②

(特急)つばさ2号		
秋 田	13:25	
四 ツ 小 屋	↓	
和 田	↓	
大 張 野	↓	
羽 後 境	↓	
峰 吉 川	↓	
刈 和 野	↓	
神 宮 寺	↓	
大 曲	14:09	
飯 詰	↓	
後 三 年	↓	
横 手	14:31	
柳 田	↓	
醒 醐	↓	
十 文 字	↓	
下 湯 沢	↓	
湯 沢	14:47	
上 湯 沢	↓	
三 関	↓	
横 堀	↓	
院 内	↓	
及 位	↓	
大 滝	↓	
釜 淵	↓	
真 室 川	↓	
羽 前 豊 里	↓	
泉 田	↓	
新 庄	15:42	
舟 形	↓	
芦 沢	↓	
北 大 石 田	↓	
大 石 田	↓	
袖 崎	↓	
楯 岡	↓	
東 根	↓	
蟹 沢	↓	
神 町	↓	
乱 川	↓	
天 童	16:23	
高 嶺	↓	
漆 山	↓	
南 出 羽	↓	
羽 前 千 歳	↓	
北 山 形	↓	
山 形	16:36	